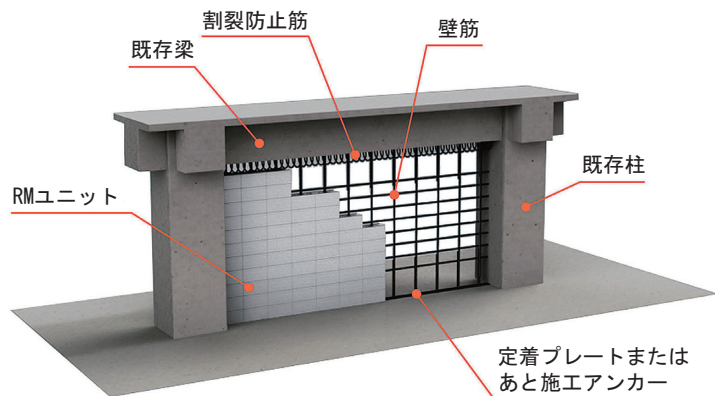


## 8. RM耐震補強工法の施工事例

### Construction Cases of RM Retrofit Shear Wall

中澤 敏樹\*<sup>1</sup> 森 浩二\*<sup>1</sup> 高見 錦一\*<sup>2</sup>



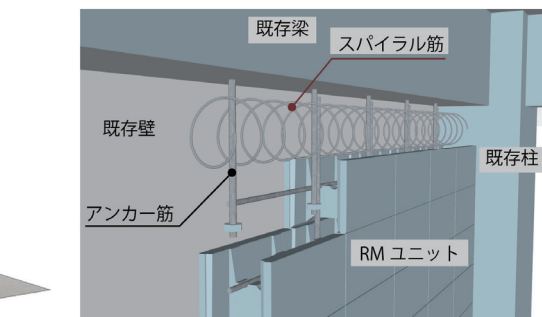
図－1 工法概要

#### □ 概要

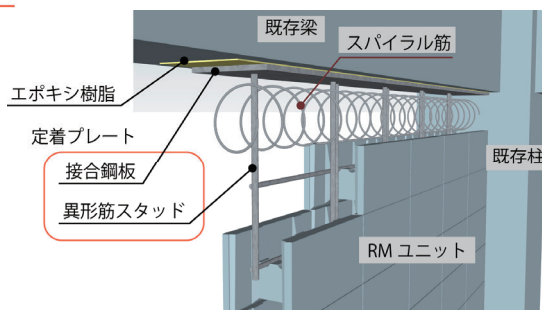
RM耐震補強工法は、既存建物の柱梁架構の内側に壁を増設する補強工法であり、図－1に示すように型枠状のブロック（RMユニット）を組積し、壁筋を配筋した後、内部に高流動のモルタルを充填したものを構造体としている。

既存躯体と増設壁との接合部の構造は、図－2に示すように、あと施工アンカーを用いる接合形式（アンカー工法）と、エポキシ樹脂を用いて接着する接合形式（接着工法）の2種類が使用可能である。

本報ではRM耐震補強工法によるアンカー工法と接着工法の施工事例を報告する。



アンカー工法



接着工法

図－2 接合部の構造

#### (1) アンカー工法による施工事例

対象建物は、医療・研究施設（地上7階、RC造）である。医療・研究施設を使用しながらの耐震改修が求められ、施工時の騒音や振動を極力抑えることが条件となっていた。そのため、建物内部で行う耐震壁増設工事について、当初計画のRC造増設壁からRM耐震壁に変更した。変更に伴う主な利点を以下に示す。

- ・RMユニットを用いることで、在来のRC造増設壁で必要となる型枠工事を大幅に簡略化できた。
- ・RM耐震壁では、RC造増設壁で用いられるコンクリートに代えてRMユニット内部にモルタルポンプで高流動のモルタルを充填するため、打設時の配管が簡略化でき、締固めも不要となった。
- ・残材、廃材が削減され、さらに施工時の騒音・振動も低減できた。

#### (2) 接着工法による施工事例

対象建物は、大学病院（地上9階地下1階、SRC造）である。前述の事例と同様に、医療・研究施設を使用しながらの改修が求められたため、アンカー工法よりもさらに低振動、低騒音である接着工法を採用した。

アンカー工法に比べ、アンカー打設時および接合面の目荒し時の振動、騒音が軽減された。さらに、対象建物がSRC造であるため、アンカー工法ではあと施工アンカーが躯体内の鉄骨と干渉する可能性があったが、接着工法とすることで、あと施工アンカーと鉄骨との干渉を防ぐことができた。

\* 1 技術研究所構造研究グループ \* 2 経営企画本部技術部